

菊井鋏製作所

使いやすく 長く愛される「道具」づくり



1973年から
続く
信頼の品質



一人一人に
合わせた
こだわりの
持ち手



機械では
不可能な
「職人技」

確かな技術とコバルト基合金のハーモニー
による、高品質な鋏はいかがですか？
最高の切れ味と持ちの良さを堪能できます

菊井鋏製作所

メンバー

- ・有芝 家
- ・中島 澤
- ・森林
- ・池田 西
- ・今助 口
- ・宮脇 出
- ・二出 川

鋏で菊井の秘密を切り取っていくッ！

突然だが、皆さんは「菊井鋏製作所」という会社を知っているだろうか。この会社では、鋏、それも理美容専用のものを作っている。自分で髪を切った経験のある人はわかると思うが、切れ味の悪い鋏ではとても髪を切りにくい。また、そのことにイライラすることもあるのではないか。

今回紹介する「菊井鋏製作所」ではそんなイライラを解消するべく、素晴らしい切れ味の鋏を製作・販売している。その名も「コバルト基合金製理美容鋏」。文字だけ見ると「なにそれ!!」となるかもしれないが、簡単に言えば、「コバルト基合金」という金属を使った散髪用鋏だ。1970年代に開発され、当時の変わらないデザインと、確かな技術で人気を誇っている。



ではここから、さらに詳しく「菊井鋏製作所」についてみてみよう。

菊井鋏製作所の鋏が愛され続けるのには理由がある。それは、鋏に用いられている素材だ。一般的に、鋏にはステンレスが用いられているが、菊井の鋏には「コバルト基合金」が使われている。「コバルト基合金」にはコバルトが70%含まれていて、これは

他には類を見ないほどの高コバルト率である。コバルトを鋏に添加することによって、高度や耐摩耗性、耐食性が高まる。よって、コバルトが多く含まれている菊井鋏製作所の鋏はそれほど強度があり、サビない。サビないという特性は、水場で使われることの多い理美容鋏にとって非常に重要であり、それが愛される理由なのだ。

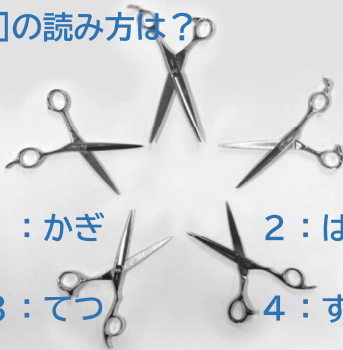
しかし、素材が良いだけでは良い製品は生まれえない。大切なのは、素材に道具としての命を吹き込むための技術力だ。コバルト(cobalt)は昔、鋳夫たちがコバルトを加工しようとしたが上手くいかなかったことを、悪い山の精「コバルト」の仕業としたことから

「コバルト」と言われている説がある。名の由来にもなるほど加工が難しいコバルトを鋏にすることは言うまでもなく至難の業だ。それでも材料の溶接から最終的な仕上げまで全て自分たちで行い、更には「どうしたら切れ味がよくなるか。」「どうすればより使いやすいだろう。」「という理美容師の目線になって考える親身さや熱心さ、そして高水準な技術も菊井の鋏が愛される理由なのだ。

今日、多くのベテラン理美容師たちがこの鋏を注文している。徹底的に道具にこだわる理美容師は、絶対にサビないコバルト基合金からできた鋏、使う場面などを深く考慮して作られるオーダーメイドの鋏を提供し、長く使えるように修理などのアフターサービスを行ってくれる点などに魅力を感じたのだろう。これらも含め、「菊井鋏製作所」の支持は高められているのだ。

いきなりですが、ここでクイズ！

【鋏】の読み方は？



1 : かぎ

2 : はさみ

3 : てつ

4 : すず

SDGs と菊井鋏

菊井鋏製作所では、カタログの請求について、Web サイトでの情報やオンラインでの個別の相談の充実を図るなかで、請求される部数が激減し、オンラインでのコミュニケーションが進展されたことに伴い、今後も請求部数が減り続ける状況で、新しい商品の情報や仕様変更の度に大量のカタログが廃棄されることを回避し、SDGs の取り組みの一環として、紙カタログ制度を廃止している。廃棄される紙が減ることで、地球温暖化への対策となるだろう。



現代表取締役の菊井健一さん

気になる菊井のQ&A！

Q: 鋏作りで一番苦労したことは何ですか？

A: 日本の理美容師は世界と比べて水準が高いといわれていて、求める鋏のレベルも高いので、納得してもらえないレベルの鋏を作ることに苦労しています。

Q: 大切にしていることを教えてください。

A: 道具として愛着を持ち、使ってもらいやすいような値段帯で商品を提供するということが、使いやすい形を追求し続け、良い鋏を作ることになります。

Q: 今後の意気込みをお願いします。

A: 目の前にいるお客様一人ひとりに喜んでいただけるような仕事をこれからも続けていきたいと思えます。

高度な技術と鋏への想い

「ここまで菊井鋏製作所の素晴らしきところを伝えてきたが、中でもお客様への熱意はどこにも負けない。菊井の鋏は一丁ずつ、職人の手で丁寧に、繊細に作られている。」

現代表取締役の菊井健一さんは

「今は和歌山より東京での販売が好調で、主な収入源になっている。地域にもっと寄り添えるような企業になれるよう、和歌山のお客様を増やしていきたいです！」と将来について力強く語っている。

理美容師の技術とともに認められてきた日本の鋏は、海外でも一目置かれている。しかし日本の鋏は、手間の分だけ、非常に高価であるため、海外での販売量はわずかに過ぎない。その状況下にあっても、健一さんは「鋏は道具ですから、たくさん売るといいよりも、一丁と丁寧に長く付き合ってくれる理美容師さんに愛されたいです。日本だけでなく、世界でも、我々の思いを共有してくれる人に鋏を使ってほしいです。」と鋏に対する愛情を明かした。やはり手間ひまと情熱をささげて作った鋏への愛情は人一倍のようだ。

海外にも高く評価されるほど高度な技術より良い鋏をお客様に提供しようとし続ける姿勢は、日本の鋏業界をより発展させるに違いない。

菊井鋏の野望！

美容院でプロの方が使用している鋏は、もちろん事務や図工で使う鋏とは大きく異なる。「ハサミ」というジャンルでくくれば同じだが、大量生産された鋏では切れ味や仕上がりが悪い上、断面図が汚く、ボコボコした状態になってしまう。断面図の汚い髪は「枝毛」になりやすく、摩擦など外的ダメージが大きい。しかし、菊井の鋏はスパッと切れるため髪への負担が少なく、断面図もキレイになる。

世界中の人たちの髪をキレイにするために、健一さん、そして菊井鋏製作所は、毎日鋏を丁寧に心を込めて作る。これから菊井の鋏に出会う人たちのためにも菊井は鋏を作り続けます！

コラム ～理美容鋏の正しい持ち方～

ここからは、理美容鋏の持ち方についてご紹介！一般的に事務・図工で使われる鋏は、親指と、中指、薬指を使って持ちますが、菊井などが作っている「理美容鋏」を持つときは、柄には親指のほかに薬指を入れて持つのです。上側の飛び出している部分に小指を添え、上の刃を固定したまま、下の刃だけを動かして髪を切っていきます。

